

「あいち男女共同参画プラン 2030 ～自分らしく輝ける、多様性に富んだ社会をめざして～（仮称）」の概要について

策定の趣旨

現行の「あいち男女共同参画プラン 2025」の計画年度が終了することから、社会情勢の変化や、国の「第6次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方（案）」の趣旨を踏まえつつ、愛知県男女共同参画審議会の答申に基づき、新たなプランを策定する。

計画の性格・位置づけ

- 男女共同参画社会基本法及び愛知県男女共同参画推進条例に基づく計画
- 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく都道府県推進計画
- 「あいちビジョン 2030」の方向性に沿った個別計画として位置づけられるとともに、県政の様々な分野における計画との連携を図り、本県における男女共同参画社会の形成の促進に関する施策を一体的に推進

男女共同参画をめぐる現状と課題

○就業する女性が活躍できる環境が不十分である

- ・共働き世帯の割合が全国平均に比べて高く、5割を超えているが、女性の非正規職員・従業員の割合は、全国平均に比べて高い。
- ・多くの年代で女性の有業率が全国平均を下回っており、出産・子育て期にあたる30歳代・40歳代でその差が大きくなっている。
- ・共働き世帯は増加しているが、家事・育児時間の男女差は依然として大きくなっている。
- ・平均勤続年数の男女差が全国で最も大きく、管理的職業従事者に占める女性の割合が全国平均を下回っていることなどを背景に、男女の賃金差異は全国で2番目に差が大きくなっている。
- ・政治や司法、地域活動など様々な分野において、政策・方針決定過程における女性の参画が十分に進んでいない。

○固定的な性別役割分担意識が依然として残っている

- ・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えに反対する人は着実に増えているものの、全国に比べるといまだ低い傾向にある。
- ・男女共同参画意識が徐々に広がる一方で、家庭・職場・地域等における男女の地位については不平等感が依然として残っており、女性の地位や女性を取り巻く環境の改善に課題が残っている。

○女性の安心・安全を脅かす状況が継続している

- ・女性が抱える困難な問題は、DV被害、性犯罪、不安定な就労、生活困窮等、多岐にわたっており、複雑・多様化している。
- ・警察が扱う性犯罪の認知件数は増加傾向にあり、DV相談等件数も依然として高水準で推移している。
- ・災害時の避難所における安全確保等、男女共同参画の視点による防災対策の徹底が必要とされている。

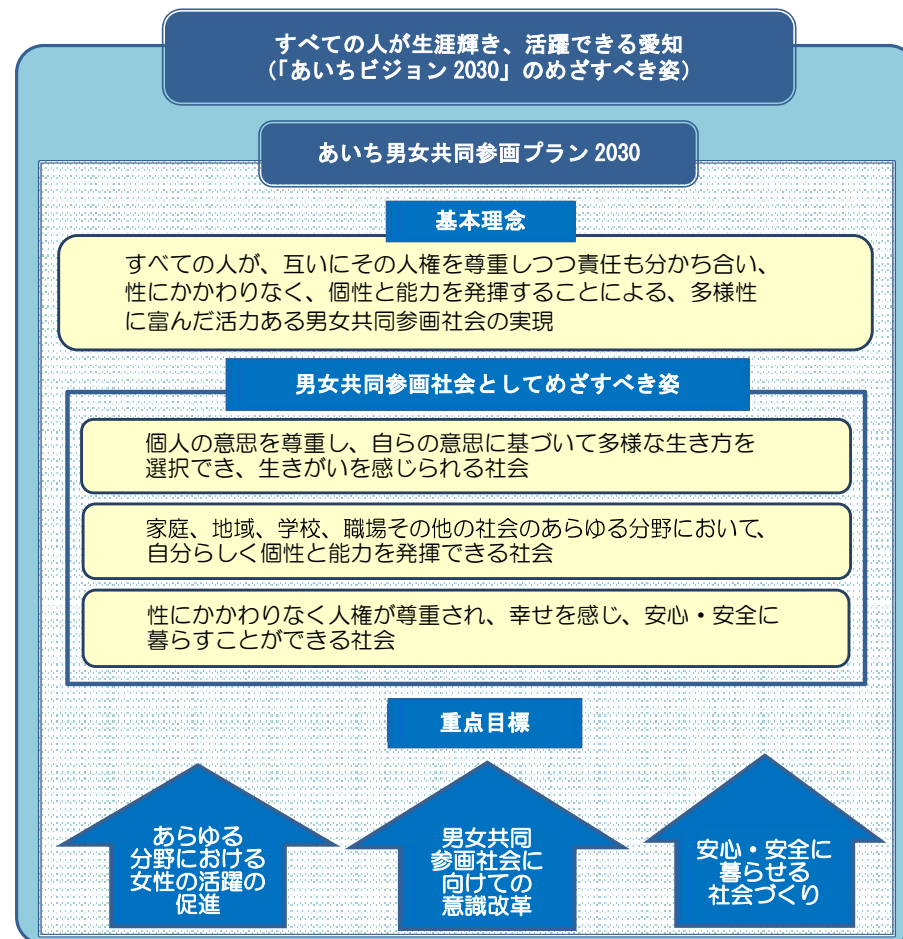
計画の特徴

- 男女共同参画社会の実現に向けて、現行プランの基本理念を継承しつつ、「3つの重点目標」と「10の基本的施策」を掲げるとともに、基本的施策の一つに「女性・若者にも選ばれる地域づくり」を位置付けるなど、社会情勢の変化や男女共同参画をめぐる現状と課題に対応する取組を整理した。

計画期間

2026年度から2030年度までの5年間

本県のめざすべき姿



計画の進行管理

プランの推進にあたっては、35項目の進捗管理指標を設定し、その実施状況について、毎年度、議会及び愛知県男女共同参画審議会へ報告するとともに、その結果を公表する。

計画の体系

